

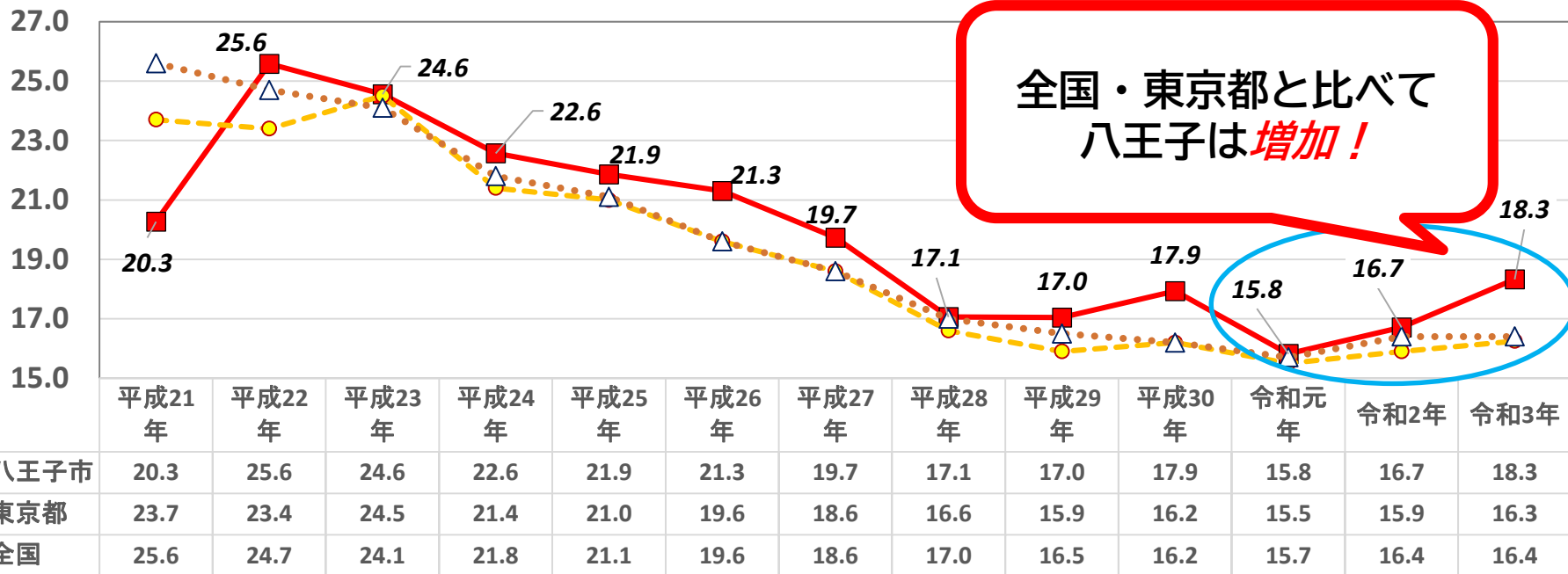
自殺対策について

令和5年（2023年）2月2日
令和4年度 保健所運営会議
健康医療部保健対策課

1. 報告趣旨

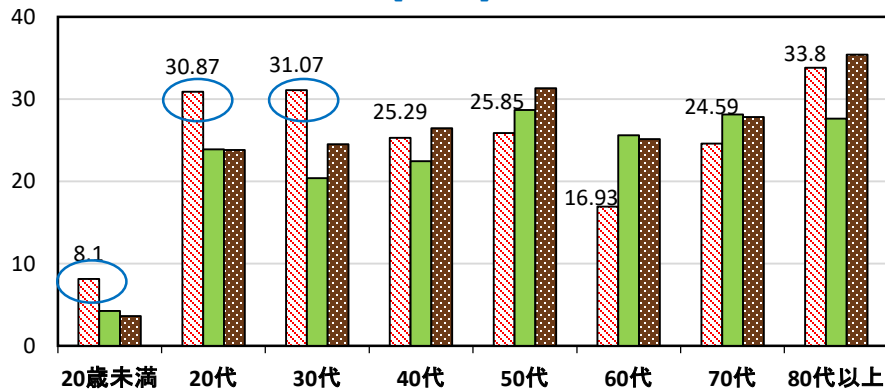
- ① 順調に減少していた自殺死亡率が、コロナの影響を受け令和2年度より増加に転じた。
➡ 平成30年度の、自殺対策計画策定時よりも令和3年度は増加した。(国は減少、都は横ばい)
- ② 特に若年層の増加率が高く、学園都市である八王子市の課題は大きい。
- ③ 自殺には様々な原因があり、一人で4つ以上の原因が重なると、自殺に至る可能性が高く、**全庁的な対策**を講じていかななくては、市民の自殺率の増加を食い止めることが出来ない。

2. 八王子市の自殺の現状

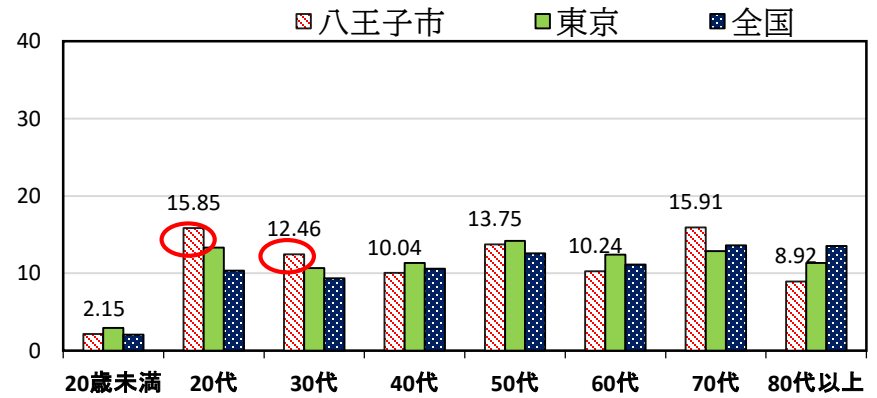


▶性・年代別 死亡率(平成30年～令和2年の合計)

[男性]



[女性]



3. 令和4年度事業報告 ①

(1) 関係会議開催報告

会議名	開催日	目的・内容
自殺対策検討会	R4. 6. 8 R5. 2. 22	▶ 外部委員による自殺対策に関する意見集約と進捗管理
自殺未遂者支援会議	R4. 4. 11 R5. 3. 8	▶ 救急病院と精神科病院による連携強化 「自殺未遂者対応ガイド」作成・配布 (後述資料)
自殺対策庁内連絡会	R4. 5. 26 R5. 1. 19	▶ 庁内関係部署による情報共有と 連携強化

3. 令和4年度事業報告 ②

(2) 啓発と周知

① 自殺対策強化月間(9月・3月)の普及・啓発活動



JR八王子駅での配架



シティビジョンでのCM放映

3. 令和4年度事業報告 ③

(2) 啓発と周知

② 街頭キャンペーンの実施 (チラシ、啓発グッズ等 1,500配布)



[3月のキャンペーン]

～ 決定 ～

▶ 3/10(金) 14時～16時

JR八王子駅北口1階

八王子インフォメーションセンター前

明星大学デザイン学部
作成ポスター

3. 令和4年度事業報告 ④

(3) 人材育成(身近なゲートキーパー養成講座)

- ▶ 一般市民向け 70名
(精神保健福祉ボランティア、健康づくりサポーター、
明星大学 PBL 等)



PBL (Project or Problem Based Learning) の様子

3. 令和4年度事業報告 ⑤

(3) 人材育成(身近なゲートキーパー養成講座)

- ▶ 支援者向け 58名
(精神保健福祉関係機関、八南助産師会)
- ▶ 職員向け(eラーニング)
3,885名
(令和5年1月5日～2月28日)



3. 令和4年度事業報告 ⑥

(4) 「こころの健康づくりに関する市民意識調査」

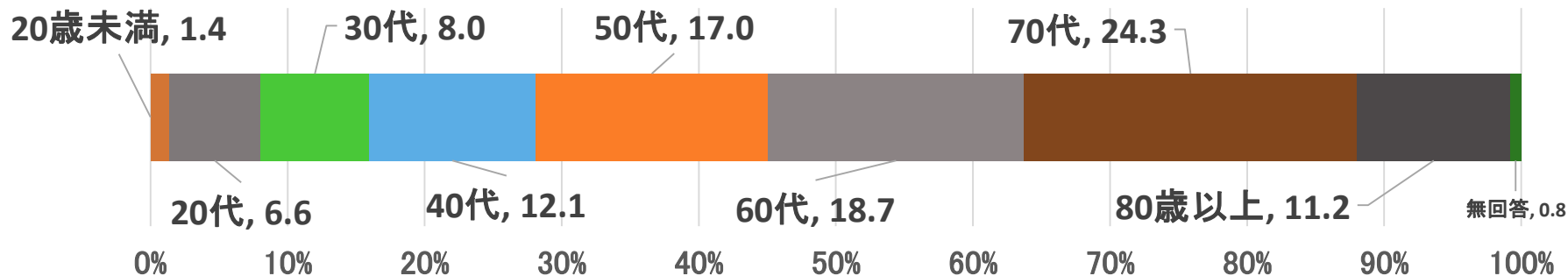
[対 象] 満18歳以上の市民3,000名(無作為抽出)

[方 法] アンケート用紙を郵送し、郵送と電子にて回答

[回収結果] 回収数1,144(郵送 915、電子229) 有効回答率 38.1%

[回答者性別] 男性45.8%、女性53.2%、その他・無回答 1.0%

[回答者年齢] 60代以上が半数以上

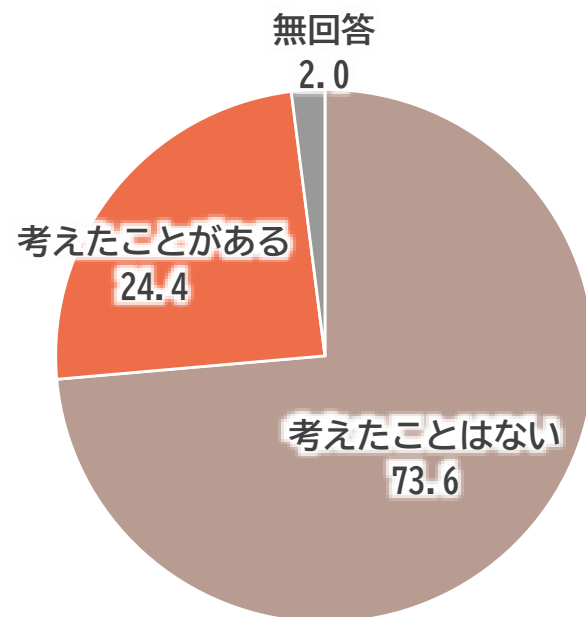


3. 令和4年度事業報告 ⑦

[調査結果(抜粋)] N=1,144

① 「自殺をしたいと考えたことがありますか？」

[考えたことがある人]
4人に1人



② 自殺を考えた原因(多い順)

勤務問題
29.7%

家庭問題
28.3%

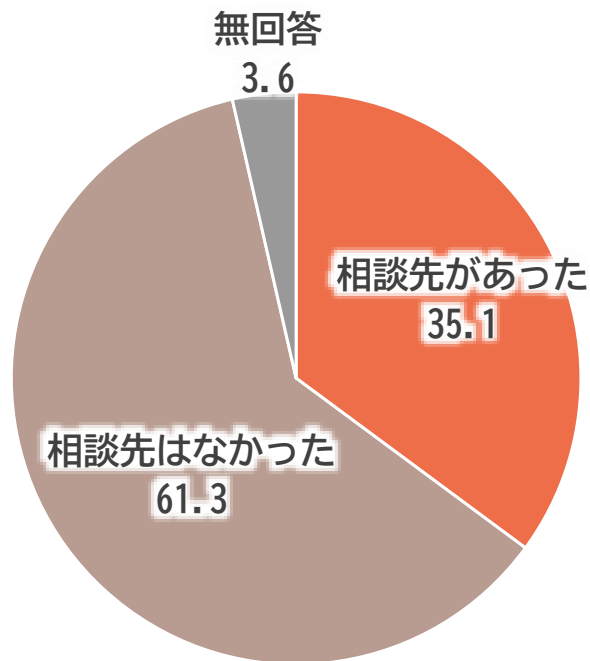
健康問題
26.5%

学校問題
22.9%

3. 令和4年度事業報告 ⑧

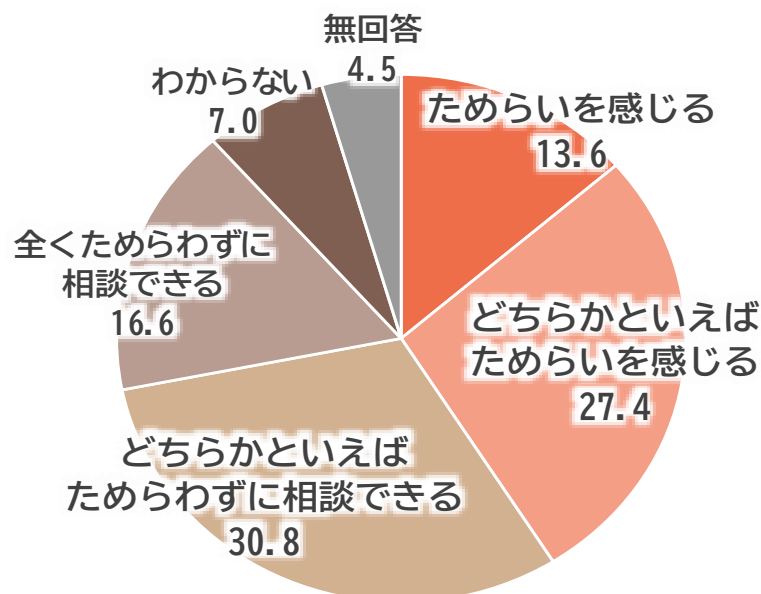
③ 「自殺を考えた時、相談できる人や相談先の有無」

「相談先が無かった人」
6割以上



④ 「ストレスや悩みを感じた時、相談したり助けを求めることにためらいを感じますか？」

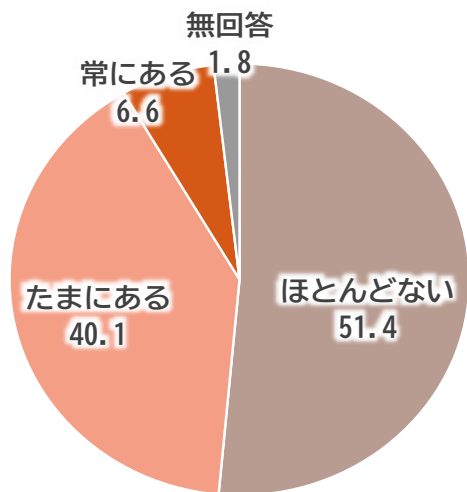
「ためらいを感じた人」
4割以上



3. 令和4年度事業報告 ⑨

⑤ 『孤独感』の有無

「孤独」を感じている人
約5割

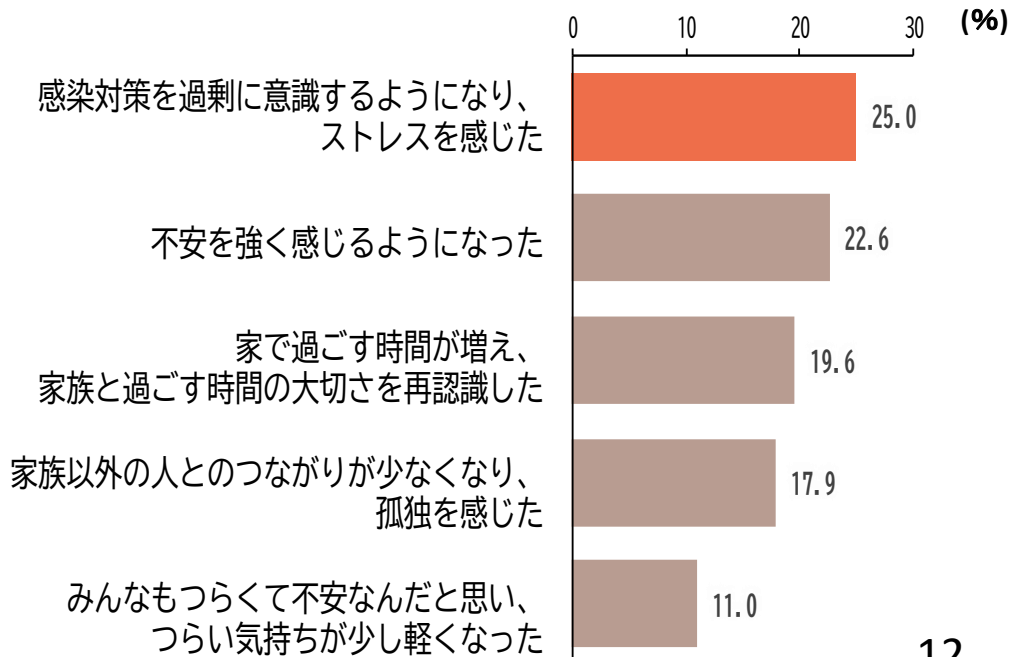


⑥ 「深刻な悩みを抱えた時」

同居の家族や親族に相談
約6割

⑦ 新型コロナウイルス感染症流行以降の心の変化

「過剰な感染対策」にストレスを感じた人
約4人に1人



相談窓口

保健師に相談したい

八王子市保健所 こころの健康相談 042-645-5196

午前9時～午後4時30分(土・日曜日、祝日を除く)

生きていくのがつらい

相談ほっとLINE@東京 (LINEでの相談)

午後3時～午後11時(受付は午後10時30分まで)、
年中無休



東京都自殺相談ダイヤル 0570-087478

～こころといのちのホットライン～

午後12時～翌朝6時(受付は午前5時30分まで)、年中無休

東京多摩いのちの電話 042-327-4343

午前10時～午後9時(第3金曜日・土曜日は24時間)、年中無休

どこへ相談してよいかわからない

よりそいホットライン 0120-279-338

24時間、年中無休

精神科への救急受診の相談 <医療機関からの相談のみ>

東京都こころといのちのサポートネット 03-5333-6484

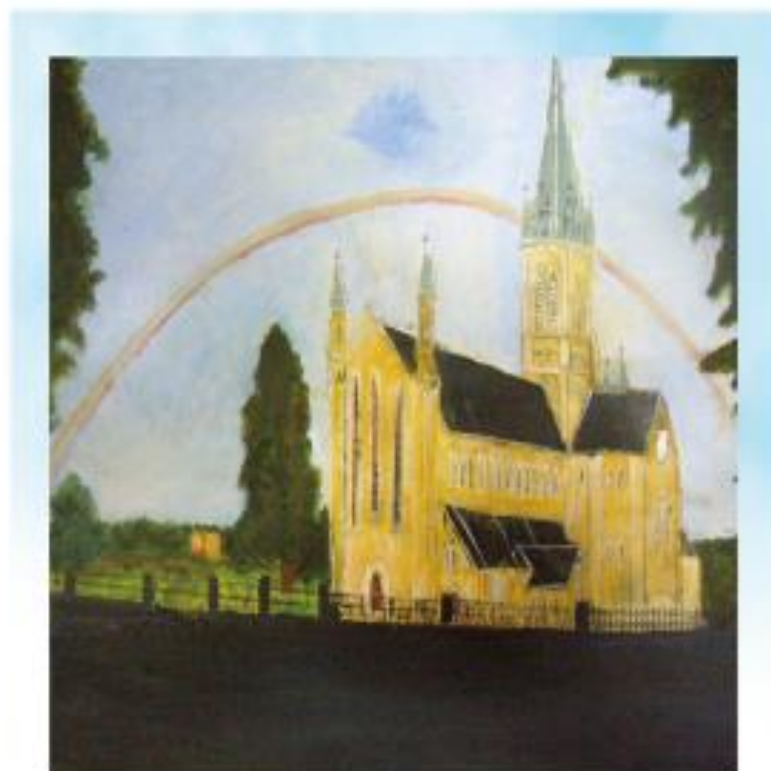
午前9時～午後5時、年中無休

※身体処置が終わった後の精神科への受診や入院をサポートする機関です。

【発行】八王子市健康医療部(八王子市保健所)保健対策課

令和4年7月 初版

八王子市自殺未遂者対応ガイド

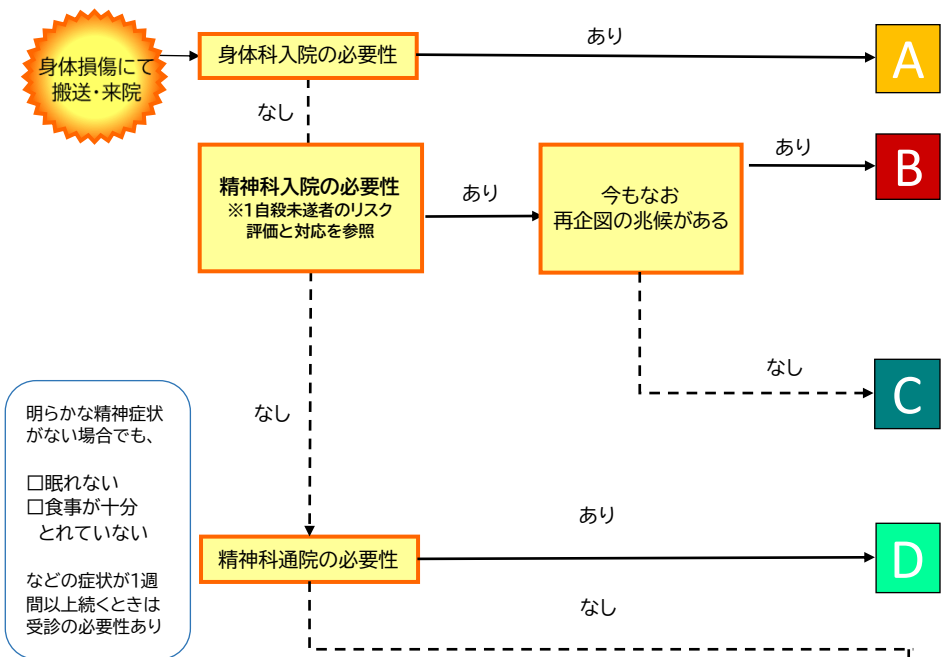


生きている人へは、早まった判断をしてほしくない。
この虹の絵のように、やがて空は晴れるということを伝えたい。

作者 50歳代 男性 東京精神科病院協会推薦

発行:八王子市保健所保健対策課

自殺未遂者対応フローチャート(救急外来)



※1 自殺未遂者のリスク評価と対応 ~日本精神科救急学会発行 精神科救急医療ガイドラインより~

危険性	自殺念慮	自分を傷つける計画・準備	自殺の危険因子(※2)の状況	対応
危険性がない	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> なし	・なし
軽度	<input type="checkbox"/> 限定的に存在	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 過去の自殺企図歴がない <input type="checkbox"/> 既知の危険因子が存在しない	・心理-社会-経済的困難に対する介入 ・社会資源に関する情報提供
中等度	<input type="checkbox"/> 明確に存在	<input type="checkbox"/> 具体的にはなし~あり	<input type="checkbox"/> 過去の自殺企図歴、もしくは、1つ以上の危険因子の存在 <input type="checkbox"/> 本人が現在抱えている情緒的・心理的状態の改善を希望している	・精神科外来における頻回・継続的な治療 ・精神科病棟への自発的入院 ・心理-社会-経済的困難に対する介入
高度	<input type="checkbox"/> 明確に存在	<input type="checkbox"/> 具体的にあり	<input type="checkbox"/> 過去の自殺企図歴 <input type="checkbox"/> 2つ以上の危険因子の存在 <input type="checkbox"/> 自殺の意思と周到な計画に関する言語化 <input type="checkbox"/> 利用可能な支援の意義を否定 <input type="checkbox"/> 将来に対する絶望感 <input type="checkbox"/> 認知の柔軟性は維持	・精神科病棟への自発的/非自発的入院 ・心理-社会-経済的困難に対する介入
非常に高度	<input type="checkbox"/> 明確に存在	<input type="checkbox"/> 具体的にあり	<input type="checkbox"/> 複数回以上の過去の自殺企図歴 <input type="checkbox"/> 複数以上の危険因子 <input type="checkbox"/> 認知の硬直化 <input type="checkbox"/> 援助に対する拒絶	・精神科病棟への緊急非自発的入院 ・心理-社会-経済的困難に対する介入

※2 自殺の危険因子
過去の自殺企図、自傷行為歴、喪失体験、苦痛な体験、職業問題、経済問題、生活問題、身体疾患の罹患およびそれらに対する悩み、ソーシャルサポートの不足、企図手段への容易なアクセス、自殺につながりやすい精神疾患・心理状態・性格、家族歴、その他(診療や本人・家族・周囲から得られる危険性、アルコール・薬物、摂食障害など)

判断	対応
A	【身体科入院が必要と判断した場合】 ■入院中に精神科医/ソーシャルワーカーの介入を検討
B	【自傷他害のおそれがある場合】 ■速やかに110番通報
C	【精神科入院が必要と考えられる場合】 精神科相談ガイドブック 精神科につなげるためのコツ(P.28~29)を参照 平日日中 ■南多摩医療圏地域精神科身体合併症救急連携事業(統合ケアネットワーク) 月~金 9時~17時 ■南多摩医療圏精神科医療連携ガイドを参考に転院先を調整 URL: https://nantama-cocoro.jp/ 「ナンタマこころ」で検索 平日夜間・土休日 ■東京都医療機関案内サービス ひまわり 03-5272-0303
D	【精神科通院が必要と考えられる場合】 かかりつけ医あり ■通院継続を促す ■主治医連絡をする 例)「今回のことは、主治医の先生にも伝えておきますね。」 「主治医の先生の他にも地域での相談先があるとよいですよ。」 かかりつけ医なし/前医△の受診拒否 ■精神科通院の必要性を本人へ伝える ■保健所事業紹介(こころの健康相談、専門医相談等) →本人(家族)の了承が得られれば、八王子市保健所へ情報提供 例)「保健所がこころの健康相談を受けています。病院から保健所に連絡先を伝えておきます。後日保健所から連絡がはいります。」 【患者へ渡す物】 ○紹介状 ○相談先一覧 ○保健所相談案内チラシ
E	■本人(家族)の了承が得られれば、八王子市保健所へ情報提供 例)「保健所がこころの健康相談を受けています。病院から保健所に連絡先を伝えておきます。後日保健所から連絡がはいります。」

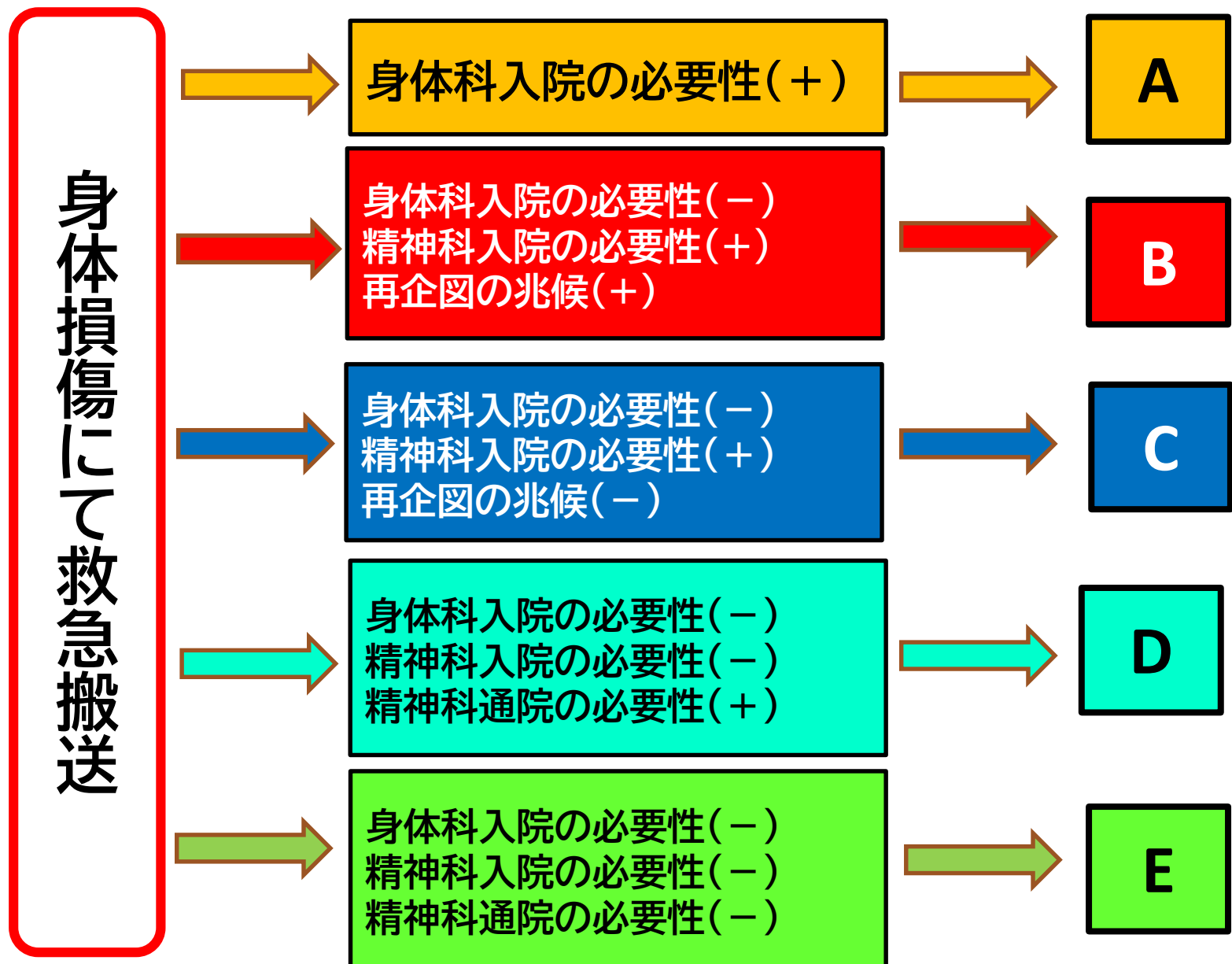
《帰宅要求の強い患者への対応》

【対応のポイント】

- ・意識清明で完全に判断力が欠如しているわけではない患者に、本人の意思に反して一般病棟での入院継続を強制することは出来ない。そのため、救急搬送された自殺未遂者は全例、自己判断で退院を要求する可能性がある。
- ・キーパーソンと退院要求があった際の対応を決めておく。
- ・身体的に入院加療の継続が必要と判断される場合は、本人に説明し説得を試みる。
「救急現場における精神科的問題の初期対応PEECガイドブック」より引用

□対象者が八王子市民の場合は、相談機関として八王子市保健所「こころの健康相談窓口(042-645-5196)」を案内する。
□本人または家族等の了承が得られれば、八王子市保健所へ情報提供する。

入院必要種類別等による、自殺未遂者対応フローチャート



判断	必要な対応
A	<p>【身体科入院が必要と判断した場合】 入院中に精神科医師・ソーシャルワーカーの介入を検討</p>
B	<p>【自傷他害のおそれがある場合】 速やかに110番通報</p>
C	<p>【精神科入院が必要と判断した場合】 平日日中 ・南多摩医療圏地域精神科身体合併症救急連携事業の利用 平日夜間・休日 ・東京都医療機関案内サービス ひまわりの利用</p>
D	<p>【精神科通院が必要と判断した場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ かかりつけ医あり <ul style="list-style-type: none"> ・通院継続を促す/主治医連絡をする ▶ かかりつけ医なし/前医への受診拒否 <ul style="list-style-type: none"> ・精神科への受診勧奨を行う ・保健所の事業を案内し、本人もしくは家族から了承が得られれば情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・紹介状、相談先一覧、保健所事業案内チラシを渡す
E	<p>保健所の事業を案内し、本人もしくは家族から了承が得られれば情報提供</p>

4. 今後の展開

- ① 「八王子市自殺未遂者対応ガイド初版」を市内12救急病院に配布し、3月に医療機関向けの研修を実施
- ② 市民アンケート調査結果を基に令和5年度「第二期計画策定」を策定し、令和6年度計画開始



生きている人へは、
早まった判断をしてほしくない。
この虹の絵のように、
やがて空は晴れるということを
伝えたい。

作者 50歳代 男性
東京精神科病院協会推薦

 3月と9月は自殺対策強化月間です

八王子市